

No. 9

2024/5/20

小野友道の

お節介な戯言

火曜日 踵の 観察日



褥瘡回診をさせていただいている。持ち込み褥瘡と病棟新作褥瘡の二つがある。後者の大きな褥瘡に出会うと、今度の作品は大作ですねと少し嫌味を言ってしまう。しかし、「皮膚・排泄ケア」分野が専門である山本沙織認定看護師の活躍もあって最近褥瘡の管理は以前と比較して格段に上達している。だが、敵もさるもの褥瘡はしぶといのである。油断すると、いつの間にやら隙を狙って褥瘡が発生してくる。油断の典型が踵部の褥瘡である。全身管理に懸命で、加えて仙骨部など褥瘡好発部位に常に目を光らせている看護師さんたちが、つい見逃しがちなのが踵なのである。踵がベッドから浮くように枕などで工夫しているが、動くはずのない足がいつの間にかずれて踵がベッドに付いて圧迫に耐えている。人の気配のない時、脚はこっそり動くのであろうか。そんな気がするほどにいつの間にかなのである。それで、私（褥瘡委員の一人である）は表記のようなキャッチフレーズを考えた。「火曜日 踵の 観察日」である。すでに昨年褥瘡委員会で披露して、ポスターを用意していただいたが、最近また典型的な踵の巨大水疱発生例が生じた。ほっておくと確実に立派な褥瘡となり、それは難治性である。

新しく入職されたスタッフの皆さんのためにももう一度「火曜日 踵の 観察日」を提案しておきたい。もちろん語呂合わせ的に火曜日にしたが、病棟の都合で何曜日でも構わないので、是非「踵に注意」する日を設けていただきたい。

宮本武蔵が『五輪の書』で二天一流の兵法について述べ、その中に「足使い」について「わが兵法においては、足づかいに特別なことはない。」とし、例えば「浮き足」を嫌うこと理由として、「戦いになると必ず足は浮きがちになるものであるから、何ともしもしっかり踏むのが道である」と述べた。踵を使ってしっかりと足を運ぶことを言っているのだらうと勝手に解釈しているが、どうか患者さんの足だけは、武蔵に逆らって、「浮き足」に願いたい。